

## 令和2年度補正予算（総額43億395万2千円）を可決

6月  
定例会

令和2年第3回6月定例会は6月2日から6月24日まで開催され、議案47件及び報告10件を審議し、最終日には、議案などの採決を行いました。

また、議員13人が議案質疑と一般質問を行いました。発言の要旨は、会派別に2ページから7ページに掲載しています。



自民クラブ

堀江 幸 二議員



- (一般質問)
- 1 伊予小松藩主一柳公の墓所について
  - 2 小松一般廃棄物最終処分場について

小松藩主一柳公墓所の  
周辺整備を！

問

小松藩は、1636年から明治時代の廃藩置県まで

文武両道を重んじた一柳家による治世の下、石高1万石の小藩ながらも230年余りにわたり、長く安定した藩政が行われていた。特に7代藩主一柳頼親公の下、近藤篤山先生やその跡を継いだ近藤南海先生らにより、多くの藩士や領民が育てられ、その教えは現在

の小松地区における気風の形成にも大きな影響を残している。また、そうした土壌が、武道の名人である田岡俊三郎や棚橋伝兵衛種政（通称・小団平）、近代女子教育に尽力した丹美園、明治初期の県会議員であり旧小松町長も務めた池原利三郎、大谷池を築造し水田開発に貢献した森田恭平など、数多くの偉人を育て、輩出してきた。

こうした小松地区の礎を築いた小松藩の歴代藩主の墓所は、旧小松町の時に史跡として指定されたものの、土地は民有地であることから、その管理は、一柳家子孫や地元有志の協力により、なんとか行われていると認識している。墓所が民有地に所在する経緯と、墓所の管理について、市はどのように把握しているのか。

また、小松藩があったことを後世に残すためにも、墓所周辺を一部公園化するなど、きれいに整備し、道路や駐車場、遊歩道などを設置してはどうかと考えるが、墓所を史跡として保存し、活用する考えはあるのか。

答

藩主墓所は、初代藩主直頼公が遠見山、7代

藩主頼親公が白谷、それ以外の藩主が佛心寺山の集合墓所の3か所に分かれて祭られている。現在、墓所自体は一柳家所有であるが、周辺は一柳家以外の民有地である。明治年間には墓所周辺の土地も一柳家所有であったことが確認できているが、その後、土地の所有が一柳家から離れた経緯は調査が難しく、不明となっている。

墓所の管理については、一柳家当主が直接管理できない状況のため、地元縁者や「小松藩主墓所を守る会」などの地元有志の協力により清掃活



遠見山にある小松藩初代藩主の墓所

動などを行っている状況である。

墓所の保存・活用については、墓所が昭和47年に当時の小松町史跡に指定されていることから、西条市文化財保護事業補助金交付要綱に基づき、文化財保護に要する経費に対して補助金交付が可能である。しかしながら、進入路や駐車場の整備は文化財保護事業に該当せず、市指定史跡の指定範囲外でもあるため、文化財保護の観点からは市が整備するに当たらないなど、課題が多い。今後の保存・活用の在り方については、地元住民の要望を踏まえながら、関係部署と協議を行いたい。